英国　アバリストウィス大学コース

【実施期間】：2023 年 8 月 11 日～9 月 6 日（27 日間）
【参加学生】：4 名

【教育研究活動の内容】：

アバリストウィス大学コースの参加学生は、10.5 時間の事前研修を受講後、派遣された。現地では、47 時間の教室内授業を受け、45 時間に及ぶ豊富な課外活動に参加した。

事前研修では、全体的準備事項をはじめ、海外留学における危機管理及び海外での健康管理などについて詳細な説明を行った。また、過去に本コースに参加した先輩が、現地での生活、勉学についての経験談を紹介し、研修生活を充実させるためのアドバイスをしてくれた。

現地授業の初日にプレスメントテストが実施され、参加学生はその時の英語レベルによってクラス分けされ、自分のレベルにマッチした言語教育を受けた。教室内授業は、基本的に月曜から金曜日の午前中に行われ、「聞く・話す・読む・書く」の４技能を中心に英語の基礎力を鍛える形で実施された。授業はほぼすべてグループワークで進められ、グループのメンバーと協力して課題を完成することによって、個人で取り組むよりも意欲的で効率的に行うことが期待された。

このコースの最も大きな特徴は、充実した課外活動が企画されていることである。毎週火、木曜日には Special interest class があり、ウォーキングコース、ネイチャーコースやライブラリーコースなどから好きな分野を選んで参加する形式であった。また、月、水と木曜日には Social Program があり、地元の劇団のミュージカルを観に行ったり、街全体を使った謎解きゲームをしたり、キングアーサーの世界観の洞窟を見学したりする内容であった。さらに、週末の土曜日も Social Program があり Cardiff への小旅行などが用意されていた。多岐多様な体験を通じて参加学生が現地の生活や文化を楽しく知ることができた。

【教育研究活動の成果】：――参加学生が提出した「海外研修報告書」より抜粋、整理

１．参加学生は教育面、生活面などにおいて日本と現地の違いを認識した。また、異文化比較を通して日本の長所と短所に気づくことができた：

① 日本では「授業中は静かにしなければならない。」「発言をする時は手を挙げる。」のような感じで、常に座学である。しかし、イギリスでは授業中に音楽を流したり、手を挙げずどんどん発言したりしていくスタイルだった。授業も日本でよくある教員による一方的な講義ではなく、生徒とコミュニケーションを多く取りながら進めるものだった。また、グループディスカッションやクラス全員と話す機会が多くありクラスが明るく楽しい雰囲気だった。さらに、生徒と先生との距離が近く発言しやすい環境だった。

② 信号の概念があまりないことに驚いた。
③ 町では犬を散歩している人が多くいて、道端のいたるところに犬用の飲み水が置かれていました。
④ ビーガンやベジタリアンに対する配慮が多くなされていた。レストランやカフェに行った際は、ほぼビーガンメニューがあり、店に入ったと同時にビーガンか確認を取られて、席を分けられたりもした。
⑤ 現地の方はとても親切で、初めて会った方でも目が合えば挨拶をしたり、そのまま会話をしたりして、人見知りとか全くなくてすごくフレンドリーに接してくれた。そのおかげで道に迷うことや、わからないことがあったら、気軽に街の人に尋ねることができたので、いろんなことがすごくスムーズにできた。通りがかった人に道を尋ねると、会話がはずんで１０分間くらい楽しくいたこともあった。日本ではありえない経験だった。

２．参加学生は留学を自分を変えるきっかけとして捉え、目標を設けて積極的に行動することができた。また、留学をきっかけに新しい目線で物事を考えたり、自分の不足を認識したり、将来について新しい可能性を見つけることができた：

① 私は店員の方と写真を撮ることを目標にして勇気を出して一緒に写真を撮る許可を聞くと、みんな笑顔で了承してくれた。とても明るくて親しみのある対応で、心が温まった。私も同じように人と関わりたいと思った。
② 行く前は知らない地域で何もかもを自分で管理して、決定しなければならないのに、言葉も完璧に相手に伝えることが出来ないということで不安だった。しかし、現地に行くと勇気と頑張ろうとする気持ちがあれば相手に通じるし、真剣な顔で訴えれば、相手も真剣な顔で親身になって聞いてくれて助けてくれることが分かった。
③ 今の下手な英語でも単語で上手く理解してくれるが、もっとスムーズに会話を楽しみたいと思った。そのため、もっと英語を勉強して、またイギリスに行くという目標ができた。

カナダ　リジャイナ大学コース

【実施期間】：2023 年 8 月 5 日～2023 年 8 月 28 日（24 日間）
【参加学生】：4 名

【教育研究活動の内容】：

リジャイナ大学コースの参加学生は、10.5 時間の事前研修を受講後、派遣された。現地では、63 時間の教室内授業及び 47 時間の課外活動に参加した。

事前研修では、全体的準備事項をはじめ、海外留学における危機管理及び海外での健康管理などについて詳細な説明を行った。また、過去に本コースに参加した先輩が、現地での生活、勉学についての経験談を紹介し、研修生活を充実させるためのアドバイスをしてくれた。

研修参加者の英語力を測るプレスメントテストが渡航前にオンラインで行われたため、参加学生が授業の初日から自分の語学レベルに合わせたクラスで授業を受けることができた。

教室内授業では、午前中はテキストを用いた一般的な文法学習や、カナダ、またはサスカチュワン州の歴史と文化などについて書かれた資料の読解を中心に進めた。授業は、アクティブラーニングを用いてグループワークやペアワークをする時間が多く設けられた。午後は午前中に学んだ内容をクイズ形式で復習することが主であった。なお、課題も基本毎日あった。

課外活動は、科学センター、博物館、ファームの見学が実施された。また、週 3~4 回程度、放課後に CA さん（お世話をしてくれる現地の学生ボランティア）と一緒にディスカッション、ゲーム、スポーツやインターナショナルナイトをする活動が設けられていた。

工夫された授業や様々な課外活動を通して、参加学生は楽しく英語を学ぶことが出来た上、異文化交流を通して、文化の違いについて学ぶことができた。

【教育研究活動の成果】：――参加学生が提出した「海外研修報告書」より抜粋、整理

１．参加学生は教育面、生活面などにおいて日本と現地の違いを認識した。また、異文化比較を通して日本の長所と短所に気づくことができた：

① 授業では、勉強するときはする、休む時は休むことを大切にするなど、日本よりもメリハリがあるように感じた。
② 誕生日の人がいると授業中のクラスで盛大にお祝いして素敵だなと思った。
③ エレベーターやドアなど必ず先に通してくれてレディーファーストな国だった。
④ 先生が妊婦さんで荷物を持とうとすると素直にありがとうと言っていた。日本だとすぐ大丈夫ですと断ってしまうが時には甘えることも大事だと学んだ。
⑤ 日本のショッピングモールは土日に混んでいるが、カナダでは土日は家族と過

ごす時間で、お店が閉まっていたり、買い物客が少なかったりした。また、21時くらいまで明るいのにお店は基本的に 17 時に閉まった。店員さんもルーズで話しながらのびのびと仕事をしていることが多かった。

⑥ 日本人はシャイな人が多いため、挨拶をする人が少ないが、現地の人達は全員とてもフレンドリーで、全然知らない人でも、ほとんどの人がすれ違うたびに声をかけてくれた。

⑦ カナダ(リジャイナ大学)には、異なる民族や人種の方が多く、多民族国家でもあるため、公用語である英語やフランス語の他に、中国語・ドイツ語・スペイン語・アラビア語など、様々な言語が飛び交っていた。人種や民族、LGBT への差別や偏見が問題視されている日本と比べ、カナダの人達は差別や偏見を持たず、全ての人に平などに接しているように感じた。

⑧ カナダには色んな国の人がいた。だから色んな文化や個性を持つ人がいて当たり前という世界だった。みんなが同じ方向を向いていて普通を求める日本とは考え方や価値観が違いとても魅力的だった。実際に仲良くなった現地の友達も同じ国同士でも宗教や生まれ、文化の違いから色んな人がいて面白かった。そして、それぞれが個性を大事にしながらありのままに生きている姿がカッコよかった。日本もそうなればもっと面白く可能性がより広がる国になるだろうと思った。

⑨ 色んな人がいたが、みんな仲が良かった。それは一人一人の個性を互いに尊重しあえているからだと思う。褒め合あったり、互いの文化を教え合ったりそこに驚くことや考えを伝えあうことはあっても否定したり意見を押し付けるようなことはなかった。

２．参加学生は外国語学習や、異文化と触れあうことの楽しさを覚えたり、語学力、または勉強意欲やモチベーションを高めることができた：

① ３週間という短い期間であったが、常に英語に触れていたことで、英語のスキルを高めることができ、ファイナルテストでは良い結果を出すことができた。留学を終えてからも、文法の勉強はもちろん、洋画を観たり洋楽を聞いたりして英語に触れる機会を増やそうと考えている。

② 私は今回の留学をきっかけにもっと英語を勉強しようと思った。そしてもう一度カナダへ訪れ現地の友達と次は翻訳機ゼロで会話したい。

３．参加学生は留学を自分を変えるきっかけとして捉え、目標を設けて積極的に行動することができた。また、留学をきっかけに新しい目線で物事を考えたり、自分の不足を認識したり、将来について新しい可能性を見つけることができた：

① 留学にいくにあたって「行動力のある人になりたい」というのが私の目標だった。そのため、わからないことがあったらネットで調べられることも自分の言葉で聞いてみたり、翻訳を使ったときは画面を見せるのではなく読んで伝える

ようにしたりして積極的に行動するように心がけた。また、通りすがりの現地の学生に挨拶してみたり、スポーツに誘ったりして友達もたくさん作った。授業は日本人だけだったが、その中でも恥を捨てて積極的に手を挙げて発言するようにしていた。すると帰る日にみんなで反省会をしたときに行動力もコミュニケーション能力も上がっているよと友達に言ってもらうことができた。

② 留学を機に自分自身が変わったと実感でき、人生で一番充実した夏休みだった。留学に行かせてくれた両親や留学前からたくさん時間を割いてくれた先生、一緒に行って様々な場面で助けてくれた友達のありがたみを知ることができた。

③ 個性が大事で必要なことである。これが分かっているのにもかかわらず私は自分に正直になれず、個性を大事にするためのあと一歩の勇気を出すことが出来なかった。しかし、留学を通して色んな人と出会い沢山の勇気と希望をもらった。そしてさらに自分のことが好きになることができ、自信も持てるようになった。

④ この留学は私にとって自分自身を見つめ直すとてもいい機会となった。私は日本が人の個性を認めない国だと考えていたが、留学を通じて大学内の友達と過ごす日々の中で私は個性が認められない日本が嫌なのではなく、殻を破り切れない自分が嫌だったことに気付いた。